

第68回日本透析医学会学術集会・総会

【演題名】下肢閉塞性動脈硬化症による足部潰瘍を有する患者に対して、レオカーナを2クール実施した1例

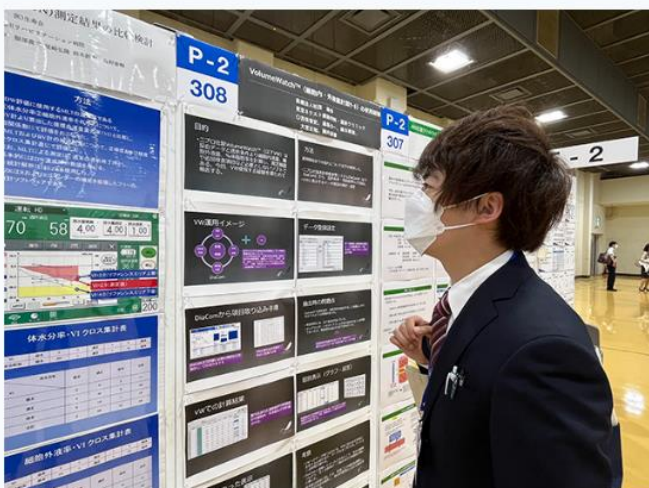
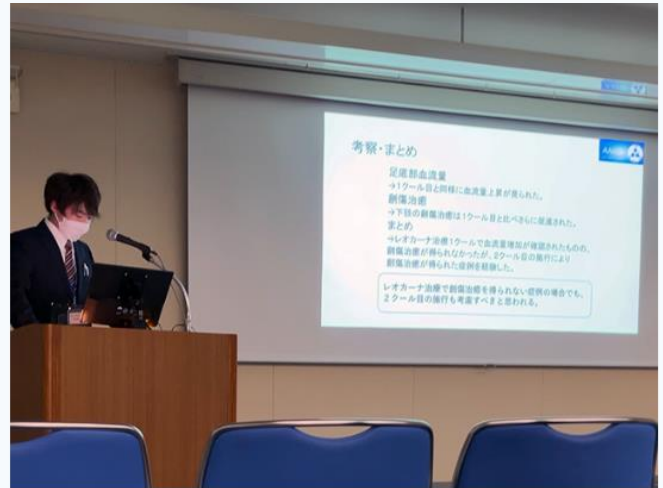
① 今回の学会・研修の内容

日本透析医学会は透析医療・医学について最新の情報・知識を収集することを目的とした学会です。毎年多くの透析医療に関わる専門職・研究者・企業の方々が集まり、議論・意見の交換を行っています。今回の学会のテーマは、『知行合一技術の実装と知識の実践』血液浄化療法に関する研究・症例発表や最新の医療機器の情報提供を行うことで、技術と知識を修得し、透析医療・医学における進歩を目指しています。

② 今回の学会に参加した感想や印象に残った発表

今回初めて透析医学会にて症例報告を行い、大変貴重な経験をさせて頂きました。病院職や企業・研究者など含め約200人程の方々の前で、症例報告をすることは滅多にできないことであり、その機会をくださった病院の皆様には大変感謝しています。LDL吸着療法であるレオカーナを2クール実施した症例を発表し、沢山の意見・提案をもらうことができました。また、今年はレオカーナに関する発表が多く、新たな知識を得ることができ、今後の治療・研究に役立てていきたいと思えます。他にもポスター展示や企業展示ブースも拝見することができ、他病院の研究成果や最新の医療機器を知ることにより知識が深めることができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに多くの方々に貢献できるよう精進していきたいと思えます。

八潮中央総合病院 臨床工学科 佐藤 穂高 北海道科学大学出身



下肢閉塞性動脈硬化症による足部潰瘍を有する患者に対して、 レオカーナを2クールで実施した1例

I. 症例

83歳、女性、末期腎不全、右第1趾・第3趾黒色壊死、下肢閉塞性動脈硬化症による足部潰瘍を有する患者に対して、レオカーナを2クールで実施した1例。

II. 結果

当院循環器内科医師による血行再建術が不適応との判断のもと、レオカーナ治療を施行した。1クール目でのレオカーナ治療では、施行前後で足底部の血流量上昇が見られたものの、創傷治癒には至らなかった。血行再建術後の不適応症例であり、他の治療も施行できなかったため、循環器・形成・透析医師で協議の結果、2クール目のレオカーナ治療を施行した。施行前後の足底部血流量は1クール目と同様に上昇が見られ、下肢の創傷治癒は1クール目と比べさらに促進された。

III. 結論

レオカーナ治療1クールで創傷治癒が得られなかったが、2クール目の施行により創傷治癒を得た症例を経験した。

IV. 考察

1クール目でレオカーナ治療で創傷治癒を得られない症例の場合でも、下肢血流増加や痛みの改善などが見られた場合、2クール目の施行も考慮すべきと思われた。